

## 国語に関する政策課題に対応する調査研究等の実施状況について

| 課題                         | 推進主体・方法等  |
|----------------------------|---|
| 国民の国語意識や言葉の理解等の現状把握        | <p>【文化庁】</p> <p>○国語に関する世論調査（平成7年度から毎年実施）において，国民の国語意識や具体的な言葉の理解等の現状を調査。</p> <p>【国立国語研究所，大学等】</p> <p>○国立国語研究所理論・構造研究系において，旧国立国語研究所が愛知県岡崎市で昭和28年，昭和47年，平成20年に実施した「敬語・敬意表現に関する経年調査」の調査データを活用した共同研究プロジェクト「敬語と敬意表現の半世紀－愛知県岡崎市における調査データの分析を中心に－」（平成22年度～平成23年度，プロジェクトリーダー 井上史雄（明海大学教授））を実施。</p> <p>○日本大学文理学部国文学科（荻野綱男教授）において，敬語の使用実態や言葉の使い方に関する調査（WW調査）「現代の敬語使用の諸相」（平成21年度～平成23年度，研究代表者 荻野綱男教授）を実施。</p> <p>○埼玉大学教養学部（小出慶一教授）において，「あの一」，「その一」といった日本語のフィラー（「ええと」「あの」「まあ」など、発話の合間にはさみこむ言葉。）について，話し言葉コーパスを利用して出現実態を調査し，フィラーが談話行動においてどのような役割を果たしているか分析した「日本語フィラーの体系化に関する調査研究」（平成19年度～平成21年度 研究代表者 小出慶一教授）を実施。</p> |
| 消滅の危機にある言語・方言の実態の把握及び保存・継承 | <p>【文化庁】</p> <p>○ユネスコが平成21年に“Atlas of the World’s Languages in Danger”の中で消滅の危機にあるものとして指摘した8言語・方言のほか，東日本大震災における影響が懸念される東北地方の方言等，消滅の危機にある言語・方言の実態把握のための調査及び保存・継承に関する必要な施策についての検討を実施。</p> <p>【委託調査】</p> <p>○文化庁から国立国語研究所に，ユネスコの“Atlas of the World’s Languages in Danger”の内容を踏まえた，我が国における危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究を委託（平成22年7月～平成23年2月）</p>   |

【国立国語研究所，大学等】

○国立国語研究所時空間変異研究系において，ユネスコが消滅の危機にあると認定した日本の8言語・方言等について，その特徴を明らかにするとともに，言語の多様性形成の過程や言語の一般性を解明することを目的とした共同研究プロジェクト「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」（平成21年度～平成25年度 プロジェクトリーダー 木部暢子教授）において危機方言の現地調査及び方言の映像や音声を記録・保存，一般公開を実施。

○国立国語研究所時空間変異研究系において，方言の形成過程を明らかにすることを目的とした共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」（平成21年度～平成25年度 プロジェクトリーダー 大西拓一郎教授）において全国の方言研究者が共同でデータを収集する調査・研究を実施。

○東北大学方言センター（小林隆教授）において，昭和30年以降，東北方言についての臨地調査の他，昭和初期の東北方言のデータベース化，消滅する方言語彙の全国調査，日本語方言形成モデルの構築に関する研究など，東北地方を中心に，全国の方言についての記録と研究を実施（昭和30年～ 代表者 小林隆教授）。

○千葉大学文学部（中川裕教授）において，アイヌ語を理解するための文法や単語の意味についての研究やアイヌ人の口頭伝承による様々な物語に描かれている世界やものの考え方，生活についての研究を行うとともに，アイヌ語やアイヌ文化に関する授業を大学等において実施。

○琉球大学法文学部（狩俣繁久教授）において，琉球語の音声や文法に関する研究や琉球語の方言辞典の作成を実施（平成元年～ 狩俣繁久教授）。

新しい「常用漢字表」の普及及び改定に伴う社会的影響の把握

【文化庁】

○常用漢字表の改定に関する説明会を実施するとともに「国語問題研究協議会」や「国語施策懇談会」等各种会議において「常用漢字表」の改定に関する説明を実施。

○常用漢字表の改定に伴う社会的影響を把握し，課題や問題点の洗い出しを行うための調査の実施に向けて，調査の実施方法等について検討。

【国立国語研究所，大学等】

○国立国語研究所において，「漢字政策の改定が漢字使用に及ぼす影響に関する研究」（平成21年度～平成23年度 研究代表者 小椋秀樹准教授）や「言語政策に役立つコーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用」（平成18年度～平成22年度 研究代表者 田中牧郎准教授）などの研究を実施。

○国立国語研究所において，「NINJALフォーラム」（一般向け），「NINJAL職業発見プログラム」（中学・高校生向け），「NINJALジュニアプログラム」（小学生向け）等を開催し，大学や他機関との連携による優れた成

|                           |   |
|---------------------------|---|
|                           | <p>果を学术界だけでなく一般にも広く周知。(平成23年9月11日の「NINJALフォーラム」において漢字を含む日本語文字・表記に関する講演を開催。)</p> <p>○早稲田大学社会科学部(社会科学総合学院)(笹原宏之教授)において、「各種専門分野における学術用語を表記する漢字に関する調査研究」(平成18年度～平成20年度 研究代表者 笹原宏之教授)を実施。</p>  |
| <p>法令・公用文書の改善のための指針作成</p> | <p>【文化庁】</p> <p>○平成22年度の「国語に関する世論調査」において、公用文の在り方(昭和26年10月に国語審議会が建議した「公用文作成の要領」で用いないとされた言葉の現在における日常生活での使用状況など)についての国民の意識を調査。</p> <p>○「公用文作成の要領」について、制定後60年を経過することから、その後の変化等を踏まえた今後の在り方について、今後、文化審議会国語分科会において審議することも検討。</p> <p>【国立国語研究所、大学等】</p> <p>○国立国語研究所コーパス開発センターにおいて、「白書」や「法律」なども登録され、公用文の改善等に活用できる「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」(平成18年度～ 代表者 前川喜久雄教授)について研究を実施。</p> <p>○専修大学文学部(齋藤達哉准教授)において、「公共情報媒体としての広報紙を対象とした表記法の在り方に関する調査研究」(平成21年度～平成23年度 研究代表者 齋藤達哉准教授)を実施。</p> |
| <p>国語施策の普及</p>            | <p>【文化庁】</p> <p>○国語施策を広く周知する「国語施策懇談会」、「国語問題研究協議会」等を開催。</p> <p>○「国語施策情報システム」(文化庁ホームページに掲載)において国語表記の基準、審議会資料等の国語施策に関する資料を公開し、周知・普及。</p> <p>【国立国語研究所、大学等】</p> <p>○国立国語研究所において、「NINJALフォーラム」(一般向け)、「NINJAL職業発見プログラム」(中学・高校生向け)、「NINJALジュニアプログラム」(小学生向け)等を開催し、大学や他機関との連携による優れた成果を学术界だけでなく一般にも広く周知。</p> <p>○国立国語研究所の職員が「国語施策懇談会」、「国語問題研究協議会」の講師等として協力。</p>  |
| <p>その他の国語</p>             | <p>【文化庁】</p>  |

|                 |  |
|-----------------|--|
| 政策に関する<br>課題の検討 | <p>○国語施策における課題等の整理を文化審議会国語分科会において審議。</p> <p>○国語に関する世論調査において、国語分科会の審議に資するデータを得るため、国民の国語に関する意識等を調査。</p> <p>【国立国語研究所、大学等】</p> <p>○国立国語研究所において、大規模な現代日本語コーパスの構築（「現代書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）」は平成18年度～ 代表者 前川喜久雄教授）を平成23年8月に完成・公開し、「言葉」という資源を言語学者のみならず、日本語（国語）教師、外国人日本語学習者、マスコミなど多方面で利用できる形で提供。</p> |
|-----------------|--|